

平成28年度第4回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「ヨシ原の成り立ちと多様な湿生植物&妙岐ノ鼻の野鳥観察」を実施しました。

開催日時：平成28年6月25日（土）9時から16時まで

開催場所：稲敷市浮島 妙岐ノ鼻

参加者：34名

今回の観察会は50haにおよぶ広大なヨシ原が広がる霞ヶ浦（西浦）南西部の妙岐ノ鼻を観察地に、植物の観察と野鳥の観察の二本立てで行いました。

講師は植物が福田良市先生。野鳥は雪入ふれあいの里公園所長の川崎慎二先生にお願いしました。お二人とも、霞ヶ浦自然観察会の植物、野鳥の観察会でいつもお世話になっている先生です。

妙岐ノ鼻はかつて茅場として茅葺き屋根の屋根材を供給していました。現在ではカヤの需要はほとんどなくなってしまいましたが、霞ヶ浦で最大の湿原を有しており、この地でしか確認できないカドハリイをはじめ貴重な植物も多く存在します。また豊かな植生は多くの鳥類の生息地としても貴重です。特にこの時期は夏鳥の繁殖地として重要な機能を有しています。

当日は天気が心配されたものの、観察会開始前には雨も上がり、曇空で特に野鳥の観察には絶好の天気となりました。晴天では逆光に位置する野鳥の観察は難しくなります。

観察地に到着すると、まずオオヨシキリのさえずりがお出迎えしてくれました。参加者のみなさんは2班に分かれ、植物と野鳥の観察を交互に行いました。

植物観察ではヨシ原の成り立ちの様子やハナムグラ、ミズオトギリ、アゼナルコスゲ、クサレダマなどの湿地性の植物を多く観察できました。現在でも貴重な植物が多く見られる妙岐ノ鼻ですが、かつてヨシやマコモ、カモノハシをカヤとして利用していたころと違い、冬場も枯れたヨシなどが残ってしまうため、他の植物が生育しにくい状況になってきていることも福田先生から教えていただきました。里山や茅場のような人が適度に手を入れることによって生物多様性を維持していた二次的自然の保全の難しさを実感しました。

野鳥の観察ではまず湿原全体から聞こえてくるオオヨシキリのさえずりに圧倒されました。フィールドスコープで観察すると、口を大きく開けて、口の中の赤い色がはっきりと見えました。また繁殖期のこの時期、オスの頭が黒くなるコジュリンの姿も見られました。本当に頭巾をかぶったような愛らしい姿をしていました。ほかにもセッカが巣にエサを運ぶ姿や、なぜか冬鳥のマガモとホシハジロのオスが1羽ずつ確認されたりしました。国内ではこの場所を含め、生息地が数か所に限られるオオセッカは川崎先生が一度さえずりを聞いたそうですが、ほかの参加者は気付かなかったようでした。川崎先生の鳥を見つけるスピード、また多くの鳥の鳴き声から、特定の種の鳥の鳴き声を聞き分ける能力には驚かされました。

一つの観察会の中で植物と野鳥の2つを対象に観察することが出来たこと、また野鳥と植生の関係など、多くのことを学ぶことができ、充実した観察会になりました。参加者の皆さん、福田先生、川崎先生、パートナーの皆さん、ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子を御紹介します。



妙岐ノ鼻，広大な湿原が広がります。



クサレダマの花が咲いていました。



ハナムグラの花は終わっていました。



福田先生と参加者のみなさん。



コジュリン



オオヨシキリ



川崎先生（右から二番目）

